様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 ２６ 日現在

機関番号：３２６１３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2016
課題番号：２６３５０７３１

研究課題名（和文）江戸時代関東農村における剣術流派の普及と展開に関する実証的研究

研究課題名（英文）An Empirical Study about the Spread of Kenjutsu Schools in the Rural Kanto Districts during Edo Era.

研究代表者
数馬　広二（Kazuma, Koji）

工学院大学・教育推進機構・教授

研究者番号：３０２０４４０７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は江戸時代の関東で、本来は江戸幕府から禁止されていたはずの農民の剣術教習をし、いかに剣術が大衆化したかを解明するための剣術関係文書調査が中心である。主な流派は馬庭念流、不二心流、神道無念流、大平真鏡流、直心影流、北辰一刀流などである。馬庭念流樋口家は16世紀に武士であったが帰農し、17世紀に道場を上野国馬庭村に開き、18世紀には近村の中・上層農民や女子が入門し、門人は1685年から1815年まで約7,000人であったので高家新田岩松氏から「剣術の師匠」と呼ばれ一目置かれた。かた稽古が中心で、不二心流の例のように、農民の自己防衛のみならず身心の健康維持を目的としたと考えられる。

研究成果の概要（英文）：This study was to investigate how the kenjutsu schools had been maintained and were popularised by farmers in the rural Kanto districts although the farmers were legally prohibited to learn kenjutsu school by Edo shogunate. I recorded the documents of kenjutsu schools which are Maniwa-nen-ryu,Shinto-Munen-ryu,Fuji-Shin-ryu,Ohira-Shinkyo-ryu,Jiki-Shinkage-ryu and Hokushin-itto-ryu.In case of Maniwa-nen-ryu,Higichi family were once warriares in the 16th century, but they returned to the farm and started to teach kenjutsu school at Maniwa village in 17th century.In the 18th century,middle or upper class of farmers and ladies started to learn Maniwa-nen-ryu kenjutsu.Higuchi family had approximately 7,000 pupils from 1685 to 1815. Higuch family were called the master of Kenjutsu by Nitta Iwamatsu(koke family). The practice was doing Kata and the farmers regarded kendo as the way to keep their body and soul good condition not only as the way for self defence like in case of Fuji-shin-ryu.

研究分野：武道論

キーワード：農村剣術　馬庭念流　大平真鏡流　八王子市犬目町齋藤家文書　中世武士　大衆化　不二心流　相馬弾正少弼

１．研究開始当初の背景

関東（上野・武蔵・常陸・下野・相模・下総・上総・安房）は、古来武士の発生地で鎌倉武士の伝統を受けて、尚武の気風が強く、剣術は飯篠山城守長威斎家直（1428～1488 天真正伝神道流・下総国）・塚原ト伝（1489～1571　鹿島新当流・常陸国）・上泉伊勢守信綱（1508～1582　新影流・上野国）などの流祖を輩出した。江戸幕末に至ると 745 流派（今村嘉雄説『19 世紀における日本体育の研究』1967）に達した。

江戸幕府から本来は禁止されていた農民の剣術教習が関東農村で実在したことに関して高橋は､農民生活文化史の立場から｢近世村落の農民が文化を創造し、歴史創造の主役が民衆にあ｣り、｢兵農分離、刀狩り、百姓帯刀禁止というドグマ的通念にいささか問題があるようにも思われる｣（高橋敏『国定忠次の時代　読み書きと剣術』平凡社選書　1991）として武器や武術が実在するはずのない近世村落に伝承された武術の存在を肯定した。

また藤木は戦国期「刀狩り令」以降でも関東における農民は武器所持したことを指摘した（藤木久志『豊臣平和令と戦国社会』1985）。渡邊は万延元年(1860)の英名録の分析により、幕末期関東八州における武芸流派の分布と農村における武芸流派分布について概観した。(渡邉一郎『幕末関東剣術英名録の研究』1967)

報告者はこれまで江戸時代中期以降に関東農村に分布した剣術流派について民衆信仰と剣術の関わり（富士山信仰と不二心流や武蔵御嶽山神社と天然理心流、相模国大山信仰と禅心無形流)､武士身分との境界身分の剣術修行（八王子千人同心と甲源一刀流）の視点から存続形態を検討してきた。

２．研究の目的

本研究は、江戸時代初期から幕末に至るまでの関東の村における剣術流派の分布と内容を調査し、近代日本へ継承された身体観、身体教育観の変遷を実証するための研究である。江戸幕府から本来は禁止されていた農民の武術教習が 18 世紀初期から確認され幕末まで流行した背景が何であったのか、そして武芸の教習が近世庶民の身体観の形成にどのような影響を及ぼしていたのかを解明することを目的とする。本研究は、日本の伝統的身体運動文化が存在した背景を明らかにするため身体教育学においても必須の研究と考えている。

３．研究の方法

関東における剣術宗家で文書や公共図書館所蔵の剣術文書調査を行うとともに門人家での聞き取り調査を併せて行った。また江戸でおこなわれた剣術流派が地方諸藩へ広がった事例が多く、文書を所蔵している福岡市立図書館、青森県八戸市立図書館、東北大学狩野文庫、石川県金沢市立玉川図書館、茨城県稲敷市立歴史民俗資料館、群馬県立文書館、東京都八王子市齋藤家、群馬県高崎市吉井町馬庭樋口家などで文書撮影を行った。

文書は武芸流派の入門起請文､門弟控帳、日記帳、剣術目録類であった。門人については､いつ（入門年月日)､どの村（国・郡・村）の誰が（氏名・身分・職業・経済力・生没年)が入門し､剣術を行っていたのかの情報を蓄積した。

なお、これまでの調査実績から農村における剣術流派普及の実態について以下の仮説において本研究を進めた。

１）　かつての中世武士が江戸時代に帰農し、村においては上層農民として存在し、武器や武具を所持するとともに自衛のために剣術を教習した。剣術の師匠となった者は、農民と剣術師匠という「２つの顔」（前出・高橋敏氏の示唆による）を持っていた。

２）　農村の剣術流派を経済的に支えた

のは、村内の中・上層の農民や地域にいた土豪のネットワークであった。江戸に進出を果たした剣術流派は、江戸市中の旗本がこれを支えた。

3）　宗家は高弟に目録発行権を認めることで出張道場として位置づけ、門人数と門人分布を拡大することが流派の長期継承につながった。

4）　道場規程など流派内での規律が整備され、流派としての独立性が保たれた。

4．研究成果

（1）武蔵国における剣術流派の調査

武蔵国多摩郡犬目村斎藤家は、元禄 12 年（1699）以来、江戸時代の終わりまで約 170 年間、千人同心の家格を保つとともに、多摩郡下犬目村名主を務める「半農半士」の家で、斎藤虎太は、大平真鏡流の塩野所左衛門へ文化 8 年(1812)に 16 歳で入門し 20 歳のときに見分をうけている。また天保 12 年（1841）には日光勤番を務めていることなどから、江戸や日光からの情報を集積することが出来た。

大平真鏡流の木刀（９９㎝、６４３ｇ）

斎藤家文書は 2011 年度よりの整理を本研究費でも引き継ぎ、近代書 4,578、近世文書合計 5,053 点を整理した。『武蔵国多摩郡犬目村齋藤家文書目録』(2016 年 3 月)『武蔵国多摩郡犬目村齋藤家文書目録（近現代図書)』(2016 年 3 月）『武蔵国多摩郡犬目村齋藤家文書史料調査中間報告』を刊行した（2017 年 3 月)。このうち近世文書については八王子市郷土資料館に寄贈し、公的閲覧に資する予定（資料移管は 2017 年 8 月予定）である。

次の表は齋藤家文書のうち武術関係文書である。

	和暦	西暦	月	表題	差出人	宛先	形態
No.1	天明8	1788	3	目録	若菜主計豊重	斎藤宗五郎	―
No.2	寛政11	1799	4	記事：原邸における武術見分			
No.3	文化2	1805	8	三才巻(中傳)	若菜主計豊重	斎藤宗五郎	―
No.4	文化2	1805	10	忠仁之巻(免許)	若菜主計豊重	斎藤宗五郎	―
No.5	文化7	1810	6	記事　日光同心村上富助へ中傳伝授	斎藤宗五郎		―
No.6	文化12	1815	11	心止記(初伝)	塩野所左衛門	斎藤虎太	巻
No.7	文化14	1817	極冬	真鏡流柔術初伝・治内巻	塩野所左衛門	斎藤虎太	巻
No.8	文政元	1818	11	三才巻(中傳)	塩野所左衛門	斎藤虎太	巻
No.9	卯〈文政2か〉	1819	4	(卯四月)武術御見分姓名順			横
No.10	文政3	1820	3	御見分罷出候者姓名書	塩野所左衛門 橋本類八　控		竪
No.11	文政3	1820	3	御見分日記	塩野所左衛門 橋本類八　控		竪
No.12	天保4	1833		目録(初伝の心止記か？)	塩野所左衛門	斎藤庄十郎	―
No.13	天保6	1835	2	真鏡流柔術初伝・治内巻	塩野所左衛門	斎藤冨八 (庄十郎)	巻
No.14	天保10	1839	11	三才巻(中傳)	塩野所左衛門	斎藤庄十郎	―
No.15	天保11	1840	11	忠仁之巻(免許)	塩野所左衛門	斎藤虎太	巻
No.16	不詳		12	〔書状〕(剣術指南役相続のお披露目につき招待状)	戸吹　松崎正作	斎藤虎太	状
No.17	弘化4	1847	10	(先師所左衛門葬儀につき案	塩野改之進	斎藤冨八	状
No.18	不詳			大平真鏡流剣術口伝	若菜主計門人 藤原誠盛		横半
用具1				木刀(長さ99cm　重さ643g)			

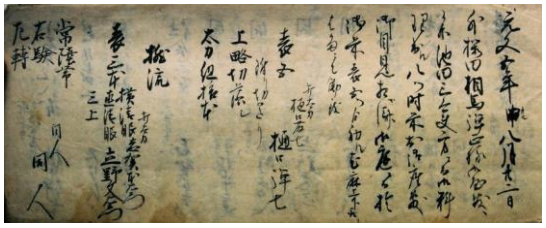
（2）上野国多胡郡馬庭村・松本家には元亀 3 年(1572)小幡弁丸から松本与惣兵衛尉の宛行状がある。松本家は中世武士であり、馬庭村に帰農した。樋口家と松本家が馬庭村名主であったとともに 2 家は当初、念流を継承する家として存在した。松本家に所蔵する文書や念流 7 世友松偽庵からの書状を通して、門人をとり指導した実態や、江戸初期の新陰流などとの教線争いなどについてもわかってきた。これについては 2017 年 9 月開催の第 50 回日本武道学会（於　関西大学）で発表予定である。

（3）大阪の陣の前年、慶長 18 年 (1613)、馬庭念流の樋口主膳頼次に入門した師岡源兵衛ら 9 名のうち、倉沢忠左衛門、師岡源兵衛、下村作左衛門、太田加右衛門の四人は沼田藩真田信之の家臣であった。(樋口家文書「誓秘」）大阪陣での軍功を鑑みると馬庭念流が戦国期の実戦を前提とした武術流派であったことがわかる。(群馬県みなかみ市で調査)

（4）将定は、寛保２年（1742）に 77 歳で「稽古修行を終え、嫡男定暠、次男定張両人へ流儀相伝の上、門弟皆引譲」りをした際、近在の門弟５人（上野国上池村、吉井村、君川村、一宮村、馬庭村）に「太刀組目録」を伝授した。その５人がのちに馬庭念流道場世話人として流派の中核的存在となっている。

（5）宝暦４年（1754）世話人（田村喜八、鈴木久兵衛、堀口小兵衛、堀口與市、田村常八）によって念流修行の心構え８条目が発行された。（「覚」）そのうちの一箇条には「一　稽古御望之方、御座候ハヾ、入門之神文、不相済候内、下稽古と擬へ、為致稽古候事、何方ニ而茂、堅御無用可被成候事。」と示され、のちの門人が破門となる例はこの規約の違反したことになる。

（6）元文５年（1740）、樋口弾七、樋口藤七は江戸外桜田の相馬弾正邸で馬庭念流の技を披露した。樋口家にはこの様子を伝える書簡があり、馬庭村から樋口藤七が江戸へ出かけたことがわかる。



樋口家文書『元文五年庚申八月二二日　相馬弾正少弼様江被召呼候節覚書』

また磐城国相馬藩「撚流」（ねんりゅう）師匠・鳶惣右衛門との往復書簡の控えが記録される。なお撚流文書は南相馬市博物館に所蔵される。

（7）江戸における武芸流派の地方への拡

①茨城県稲敷市立歴史民俗資料館

不二心流は幕末房総（いまの千葉県）で普及した剣術流派であったが、常陸国（茨城県）に開祖中村一心齋直筆と考えられる文書が伝承されていた。茨城県稲敷市の川崎家文書の『不二心流中村一心斎肖像画』は千葉県君津市三沢家蔵の中村一心齋蔵と同じ三代目堤等琳(雪山)によって描かれたことが判明した。そのほか『不二心流初段目録』（天保 12 年３月）、『不二心流上段目録』

「三代目堤等琳(雪山)による中村一心齋像（川崎家所蔵）」

（天保12年３月)『不二心流入門簿　四則』（天保 15 年１名、弘化４年１名安政７年１名の入門者名が記される）がある。この中で次のように剣道を学ぶ効能が明記されている。

「富者ノ人筋骨弱ク多病なルモノ多シ。サラバ剣道ヲ習ワシムル。則ハウツ散ハツ気精神スコヤカニ、キン骨ヲ強クシテ保寿延命スルモノ」（下線は報告者）。

ここで剣術修行が上層農民の養生に有効であると述べられており、江戸幕末の健康意識の高まりが農民にもあったことがわかる。

②愛知県犬山市・犬山城白帝文庫

尾張国犬山における剣術流派、機迅流 4 点、猪谷流３点の剣術目録を撮影。

③福岡県福岡市立博物館

福岡市立博物館所蔵の以心流・二天流・安倍流・直心影流・新陰流・タイ捨流、雲弘流、片山流の文書のほか、江戸幕末に名を馳せた剣士・直心影流島田寅之助(1814-1852)の書簡を撮影した。

④青森県十和田市新渡戸家資料館では、南部藩の兵学者として上杉流の兵法文書および戦国武将としての系譜と戦国期の武具（足軽への貸し出した武具）を所蔵している。

⑤東北大学狩野文庫では、新當流内傳、劔法撃刺論、修行録（春の心）二天一流五倫卷、武州八王寺合戰（信玄公御一代合戰圖附當流第一二）の撮影を行った。

⑥石川県金沢近世史料館（「春風館文庫」）で小野次郎右衛門忠明免状（慶長 10 年 5 月 11 日）ほか一刀流関係文書を撮影。

⑦青森県八戸市立図書館

南部藩の剣術文書 39 点（宮本武蔵流、通神流、東軍流、天流、義経流、新陰流、北辰一刀流、本至流、冨田勢玄流、神道無念流）を撮影。

⑧福島県南相馬市立博物館

前頁４−(6)にもとづき、福島県南相馬市立博物館で鳶惣右衛門文書「源流兵法之事」を撮影した。その文書内に系譜が記され「撚流貞純親王―代々樋口源頼次…鳶　無一―鳶　惣右衛門尉智治…鳶　惣右衛門尉−小林安左衛門」とある。すなわち馬庭念流樋口主膳頼次の名前が記されていた。年未記載)。また相馬市内にある鳶惣右衛門子孫家を訪問し長篠の戦いに出陣した中世武士の家系を確認した。

⑨幕末から明治初期に開かれた上野国群馬郡中里村の五十嵐勘右衛門道場の看板と考えられる資料が樋口家資料館に寄贈された。これには「馬庭念流剣術指南所」と記される。江戸市中の道場看板は「上州馬庭村　未来記念流」と記していたことと比較すると、「馬庭念流」と自称した事例として貴重である。

⑩江戸時代剣術起請文には、和歌山県の熊野本宮大社、熊野速玉大社、熊野那智大社の三社の八咫烏牛王印が押印されている。熊野本宮大社午王印八咫烏は 88 羽、熊野速玉大社午王印八咫烏 52 羽、那智大社午王印八咫烏 72 羽であり、起請文と三社の関係がわかる。

樋口家文書　享保 17 年　起請文

（８）海外へ流出している剣術文書の所在確認のため、次の海外在住研究者と情報交換した。

・Dr.Stefan　Maeder（Royal Armouries Museum.　UK）
・Dr.Micael Wert (Marquette University.USA)
・Dr.Kauko Laitinen(University of Helsinki.FINLAND)
・William Bodiford（University of California, Los Angeles.USA）

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計３件）

① 数馬広二　武蔵国多摩郡犬目村齋藤家における大平真鏡流剣術　工学院大学研究論叢　54 巻 1 号，pp．39−51,2016/10/31　査読無

② 数馬広二　八王子市犬目町地域の理科教育に果たした斎藤家の役割に関

する基礎的研究(3)『工学院大学総合研究所年報』23 号,pp.33-41, 2016/07 査読無

③ 数馬広二 八王子市犬目町地域の理科教育に果たした斎藤家の役割に関する基礎的研究(2)『工学院大学総合研究所年報』22 号 pp.74-80 2015/07 査読無

〔学会発表〕(計２件)

① KAZUMA Koji Kendo and Modern Equipment(Lecture and Demonstration)2nd FIEP ASIA conference-Culturaland Innovatory Practices in Physical Education in Asia 2016 年 2 月 13 日

② 数馬広二 武蔵国多摩郡犬目村の大平真鏡流について－八王子千人同心・斎藤家文書の整理を通して－日本武道学会第 47 大会(福山市立大学) 2014 年 9 月 10 日

〔図書〕(計４件)

① 河村真澄、宮島花陽乃、加藤典子編集 数馬広二発行『武蔵国多摩郡犬目村齋藤家文書史料調査中間報告』2017 年 3 月 1 日

② 数馬広二、神戸航介 吉田司雄 榎本淳一『武蔵国多摩郡犬目村齋藤家文書目録 (近代現代書籍)』 2016 年 3 月 10 日

③ 数馬広二、河村真澄、宮島花陽乃、加藤典子、福元啓介、吉田司雄、榎本淳一『武蔵国多摩郡犬目村齋藤家文書目録』 2016 年 3 月 10 日

④ 数馬広二『東京学連剣友連合会 五十周年記念誌』pp.13-44「歴史を振り返って」を執筆。および pp.200-231「資料編」の編集。 2015 年 12 月 10 日

〔その他〕

ホームページ等

http://er-web.sc.kogakuin.ac.jp/Profiles/5/0000459/profile.html

６．研究組織

(1)研究代表者

数馬広二 (KAZUMA、kouji)

工学院大学・教育推進機構・教授

研究者番号：３０２０４４０７